

行政評価(施策評価シート)

1 基本項目

基本目標4	ひとと環境にやさしい安全で快適なまち
基本施策2	自然と調和した安全で快適な都市の形成
施策27	都市基盤整備
基本方針	
羽村駅西口土地区画整理事業を推進し、快適で潤いのある良好な居住環境の創出と市の玄関口にふさわしい駅前活性化を図ります。また、市街化調整区域である羽字武蔵野等地区について、都市機能の向上と地区内の都市計画施設の充実を図ります。	

2 指標(長期総合計画目標指標)

指標名		現状		H24実績	H25実績	H26実績	H27実績	H28実績	目標値 (平成28年度)
指標1	羽村駅西口土地区画整理事業の進捗率(事業費ベース)	5%	(平成22年度)	6%	6%	7%	8%	10%	10%
指標2	富士見霊園内の墓地面積	6,539 m ²	(平成23年度)	6,539 m ²	6,964 m ²	6,964 m ²	6,964 m ²	6,964 m ²	7,000 m ²

3 施策を構成する平成28年度事務事業の実施・評価結果

No	事業名	平成28年度実施結果			評価(所管課長)				指標に係る重点事務事業
		決算/円	予算執行率	進捗状況	妥当性(必要性)	効率性(手法)	有効性(成果)	方向性	
1	羽村駅西口土地区画整理事業の推進	1,077,553,025	92.3%	計画どおり完了	○	○	○	A	*
2	羽村駅西口地区先導的都市環境形成計画の推進	-	-	計画どおり完了	○	○	○	A	*

4 施策評価

① 施策の評価

羽村駅西口土地区画整理事業は、既成市街地の再編整備事業であり、安心、安全で環境に配慮した総合的なまちづくりである。

本地区では、平成27年度から移転実施計画を基に本格的なハード整備に着手し、建物等の移転に向けた、個別の説明や協議を行い、関係権利者等の協力のもと、計画的かつ効率的に建物等の移転を進めた。

また、道路築造工事等については、関係機関との調整や工事範囲を捉えた関係住民への丁寧な説明に努めながら、整備を図っており、事業進捗率は、事業費ベースで10%となっている(指標1)。

事業期間及び資金計画の見直しについては、現在、移転実施計画及び移転・工事実績等を踏まえ、作業を進めている。

富士見霊園については、平成25年度に区画墓地310区画等の整備により、墓地面積6,964m²を確保した。

② 今後の方向性(改善への取組み等)

羽村駅西口土地区画整理事業については、事業計画及び移転実施計画を踏まえ、引き続き権利者への個別説明や協議、工事範囲を捉えた関係住民への丁寧な説明に努め、理解と協力を得て事業の推進を図る。

道路築造工事等においては、関係機関との調整を行いつつ、計画的かつ着実な事業の執行により、利便性が高く賑わいのある駅前周辺の商業地や、快適で潤いのある良好な居住環境の創出を目指すとともに、事業期間及び資金計画の見直しに向けて、国・東京都との協議を適時に進めていく。

また、基幹事業である土地区画整理事業の進捗にあわせて、引き続き、羽村駅西口地区先導的都市環境形成計画に掲げる事業を推進していく。

市街化調整区域である羽字武蔵野等地区の基盤整備と有効活用については、地区の大部分が砂利採取跡地であることなど、さまざまな課題があることから、引き続き検討していく。

平成28年度 【基本シート】

1.基本項目

事業名		作成部署	区画整理部			区画整理総務課・区画整理推進課
開始年度		実施期間	事業種別	運営手法	進行管理	
1	羽村駅西口土地区画整理事業の推進	平成 15 年	その他	自治事務(市独自)	業務委託(一部)	○
	01	年				
	02	年				
	03	年				
	04	年				
	05	年				
関連課	都市計画課					
基本目標	4	ひとと環境にやさしい安全で快適なまち	施策区分	27	都市基盤整備	事業番号 1

2.事業の概要

事業内容	土地区画整理事業により、羽村駅西口地区の市街地整備を推進し、良好な都市環境の創出を図ります。					
根拠法令	土地区画整理法					
条例	福生都市計画事業羽村駅西口区画整理事業施行規程 外関連条例等					
要綱等						

3.成果指標

成果目標	羽村駅西口地区、面積42.39haの区域に土地区画整理事業を施行し推進する。 JR青梅線羽村駅を中心とした利便性の高い駅前市街地の再編を図るとともに、都市施設と自然が調和した市街地の再生を図る。 平成28年度の羽村駅西口土地区画整理事業の進捗率（事業費ベース）……10%					
------	---	--	--	--	--	--

4.活動指標

Plan【計画】	平成27年度(現況)	3か年計画		
		平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業内容 事業量等	事業計画変更の手続き			
	仮換地の指定	同左	同左	同左
	移転実施計画に基づく街路等整備工事・移転補償の実施	同左	同左	同左
	都市整備用地の購入	同左	同左	同左

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成27年度(現況)		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	3人	1,876 H	3人	1,876 H	3人	1,876 H	3人	1,876 H
主事・主任職	3人	1,866 H	3人	1,876 H	3人	1,876 H	3人	1,876 H

②総事業費

事業費の内訳(単位:千円)	平成27年度(現況)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費	125,000	1,167,000	624,400	704,000
人件費(係長職)	28,352	27,992	27,992	27,992
人件費(主任・主事職)	20,137	19,125	19,125	19,125
総事業費(合計)	173,489	1,214,117	671,517	751,117
国庫支出金	0	88,000	169,400	180,400
都支出金	0	0	15,400	29,300
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	0	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	173,489	1,126,117	486,717	541,417
財源内訳(合計)	173,489	1,214,117	671,517	751,117

③コスト計算

ア 市民	56,281	人における1人あたりのコストは、	21,572	円		
イ 対象者	4200	人における1人あたりのコストは、	289,075	円		
ウ 成果物	整備面積	の出来高	423963	m ² における1 m ² のコストは	2,864	円

※ 対象者: 施行地区内計画人口

Do【実行】 【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか)

※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

優先整備地区である「しらうめ保育園周辺」では、平成29年4月に民営化となる「しらうめ保育園」の移転先用地を確保するため、権利者に協力をいただき建物等の移転(除却)が完了した。

「川崎一丁目エリア」では、平成29年度の建物等の移転に向けた補償調査を実施するとともに、移転の具体的なスケジュール等について対象権利者へ丁寧な説明を行った。

「羽村駅前周辺」では、平成30年度以降の移転の具体的なスケジュール等について対象権利者へ丁寧な説明を行った。

「羽村大橋周辺」では、埋蔵文化財調査を行った上で、区画道路を整備し、児童の登下校の安全性や歩行者の利便性を確保した。また、都市計画道路3・4・12号線の用地確保及び平成29年度から着手する擁壁設置工事に向けて、計画線内の権利者に協力をいただき建物等の移転(除却)が完了した。

②投入実績

決算の内訳(単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	1,167,000,000	0	1,167,000,000	1,077,553,025	92.3%

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
事業計画の変更決定に伴い、ハード事業へ移行し、関係機関及び関係権利者等との調整・協議を行い、建物等の移転や区画道路の築造工事などに着手した。	平成27年度に引き続き、ハード整備を計画的に進め、建物等の移転(除却)により都市計画道路の用地や権利者の移転先を確保するとともに、羽村東小学校東側の区画道路を整備し、供用を開始したことにより、歩行者や児童の安全な歩行空間を創出した。 また、優先整備地区における平成29年度以降の移転工事等、ハード事業の計画的かつ効率的な推進に向けて、移転対象の権利者には建物等の補償調査に協力いただくとともに、移転実施計画に基づく工事等、関係権利者の協力を引き続きいただきながら、事業推進を図るため、移転順序や工事工程など具体的な内容を示したうえで、丁寧な説明に努めた。

②4.活動指標のPlan【計画】において、目標値を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	⇒	本年度:実績値

Check【評価】

◎・・・適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

○・・・適切なもの

8.評価

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △・・・課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性(必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性(手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性(成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)

【今後の方向性】		高 [妥当性・有効性]	今後の方向性
低	B:事業の進め方の改善の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当	
	C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討		高 [効率性]
	D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討		低

Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性

評価(所管課長)

事業計画及び移転実施計画を踏まえ、引き続き関係権利者との調整及び、関係機関等との協議を進め、計画的かつ効率的に事業を推進していく。

平成28年度 【基本シート】

1.基本項目		作成部署	区画整理部			区画整理総務課・区画整理推進課
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
2	羽村駅西口地区先導的都市環境形成計画の推進	平成 23 年	その他	自治事務(市独自)	直営	○
	01	年				
	02	年				
	03	年				
	04	年				
	05	年				
関連課	環境保全課					
基本目標	4	ひとと環境にやさしい安全で快適なまち	施策区分	27	都市基盤整備	事業番号 2

2.事業の概要

事業内容	羽村駅西口土地区画整理事業の施行にあたっては、先導的都市環境形成計画に基づき、低炭素型のまちづくりを推進します。
根拠法令	
条例	
要綱等	

3.成果指標

成果目標	平成23年3月に策定した「羽村駅西口地区先導的都市環境形成計画」に基づき、羽村駅西口地区の地球環境に配慮した快適で住みよい都市づくりの実現を図る。 再生エネルギーの有効活用、環境に配慮した交通手段、緑の保全・育成、環境意識の啓発などの諸施策の推進により、低炭素型社会の実現を目指す。 羽村駅西口地区から排出される二酸化炭素の排出削減目標値……4,048t-CO2/年の削減
------	--

4.活動指標

Plan【計画】	平成27年度(現況)	3か年計画		
		平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業内容 事業量等	ウッドチップ舗装路の管理・効果の検証	同左	同左	同左
	稲荷緑地再生事業	同左	同左	同左
	環境に配慮したまちづくり活動	同左	同左	同左

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費 【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成27年度(現況)		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	0人	0H	0人	0H	0人	0H	0人	0H
主事・主任職	1人	24H	1人	24H	1人	24H	1人	24H

②総事業費

事業費の内訳 (単位:千円)	平成27年度(現況)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費	0	0	0	0
人件費(係長職)	0	0	0	0
人件費(主任・主事職)	87	82	82	82
総事業費(合計)	87	82	82	82
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	0	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	87	82	82	82
財源内訳(合計)	87	82	82	82

③コスト計算

ア 市民 56,281 人における1人あたりのコストは、 1 円
 イ 対象者 4200 人における1人あたりのコストは、 20 円
 ウ 成果物 整備面積 の 出来高 423963 m² における1 m² のコストは 0 円

※ 対象者: 西口地区の計画人口

Do(実行) 【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか
 ※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

ウッドチップ舗装の管理・効果の検証のための巡回を実施した。
 羽村東小学校東側の区画道路整備により、環境配慮型のLED照明の設置、地下水涵養のための雨水浸透トレンチ管を敷設した。

②投入実績

決算の内訳 (単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	0		0		-

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
実証実験を継続して行った。 剪定枝を再利用したウッドチップ舗装のPRを行った。 照明塔のLED化及び雨水浸透トレンチ管を設置した。	実証実験を継続して行った。 街路灯のLED化、雨水浸透トレンチ管を設置し、環境に配慮した工事を行った。

②4.活動指標のPlan【計画】において、目標値を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値

Check(評価)

8.評価

◎・・・適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

○・・・適切なもの

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △・・・課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性 (必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、 事業の必要性はあるか	○
効率性 (手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性 (成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)

【今後の方向性】	高 [妥当性・有効性]	今後の方向性						
低 ← <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td>B:事業の進め方の改善の検討</td> <td>A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当</td> </tr> <tr> <td>C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討</td> <td></td> </tr> <tr> <td>D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討</td> <td></td> </tr> </table> → 高 [効率性]	B:事業の進め方の改善の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当	C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討		D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討		↑	A
B:事業の進め方の改善の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当							
C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討								
D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討								
	↓							
	低							

Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性

評価(所管課長)
 本事業は土地区画整理事業を基幹事業としている計画であり、基幹事業の進捗にあわせて成果が表れるため、今後の方向性については、引き続き「計画どおりに事業を進めることが適当」と判断し、土地区画整理事業の進捗に沿って進めていく。